

ポスターキャリアモデルの皆様

氏名	地域・部門・所属	タイトル
(こが さおり) 古賀 沙織 さん	東京 資源工学部門（資源循環及び環境） 三菱マテリアル株式会社	技術士はチャレンジ精神の源
(さとう よしの) 佐藤 佳乃 さん	静岡 農業部門（修習技術者） 政令指定都市職員	未熟者ですが…
(ただ てるよ) 埴田 照代 さん	福井 建設部門（建設環境） 農業部門（農村環境） 環境部門（自然環境保全） 株式会社北陸環境科学研究所	技術士で得られたつながり
(ながい ともみ) 永井 登茂美 さん	北海道 建設部門（都市及び地方計画） 総合技術監理部門（建設-都市及び地方計画） 日本データサービス株式会社	私の30代、技術士の目線から
(まるやま なおこ) 丸山 奈緒子 さん	神奈川 環境部門（環境保全計画） 日産自動車株式会社	私のキャリアパスと技術士
(みょうい ようこ) 苗井 洋子 さん	広島 電気電子部門（建築電気設備） 株式会社中電工	世界を広げる

技術士を目指した動機

土木工学を専攻していた学生時代、就職担当の教員から「女性が専門職として条件の良い会社に就職するのは男性の何倍もハードルが高い」という話を散々聞かされてきました。就職活動をする上で何か武器になるものを身につけなければならない、と考えたのが技術士を目指したきっかけでした。学部4年生のときに第一次試験に合格し、大学院に進みました。技術系総合職として就職してからは、技術士になりたいという思いがますます強くなりました。私の仕事の分野では女性のエンジニアは非常に珍しく、一緒に仕事をする社外の方々からは先入観から事務系だと思われ、技術色の強い話になかなか踏み込めないことが多々ありました。技術士資格を取得すれば堂々と名刺に技術士であることを明記できる！と考えた私は、30歳までに第二次試験に合格したいということを上司に告げ、受検に必要な実務経験となる仕事を積極的に担当させてもらいました。その結果、入社3年目の27歳のときに技術士となることができました。

技術士としての仕事



〔新設した工場にて〕

仕事もたくさんありましたが、上司は「年齢や性別にとらわれることなく自信を持ってやってみろ」と後押しし

ちょうど私が技術士になった頃、新入社員の頃から担当していたレアアースのリサイクルのプロジェクトで工場を新設することになりました。機器類の仕様の決定や設計といった技術的なことだけでなく、予算やスケジュールの管理等、稼働に至るまでの幅広い業務に従事しました。まだ入社して数年、経験も知識も少ない私にできるだろうか？と思うような

てくれました。



〔広報活動も大事な業務〕

女性会員の紹介

こが さおり
古賀 沙織さん
資源工学部門
(資源循環及び環境)
三菱マテリアル株式会社



技術士は
チャレンジ精神の源

四苦八苦しながらも、技術士としての自覚を持ち、機器メーカーやパートナー企業の方々とコミュニケーションをしっかりとりながらプロジェクトを進めていきました。広報活動も積極的に行い、たくさんの取材を受けました。プロジェクトの意義や新技術について専門分野以外の人にも広く知ってもらえるよう、分かりやすく丁寧な文章表現や会話を心がけ、多くの新聞や雑誌に記事として掲載されました。工場が無事に稼働して新規事業として立ち上がった頃に第一子を妊娠し、しばらく仕事から離れることになりました。

ワーク・ライフ・バランスについて

第一子が10カ月になったときに職場復帰しました。子どもがいないときは自分が納得できるまで残業も休日出勤も厭わず仕事をしていましたが、今度は残業どころか

時短勤務でなくては保育園の送迎に間に合いません。復帰してしばらくは仕事でも家庭でもストレスを感じていましたが、職場の同僚や主人の協力のおかげで、1カ月もすると落ち着いて仕事に取り組めるようになりました。子どもが急に体調を崩すことも多いので、ノートPCを必ず持ち帰って自宅でも仕事ができるようにしています。

また、出張や重要な打合せの際には、私が行けなくな



〔育児も楽しく安全第一〕

っても顧客やパートナーに迷惑をかけることが無いよう、それまでの経緯をまとめた資料や重要事項のメモを、前日までに同僚や上司に渡すように心掛けています。とにかく時間が足りないと感じる日々ですが、業務も子育ても安全第一。焦りを感じたときには深呼吸することにしていきます。現在は第二子の育児休暇中ですが、保育園を

技術士になってよかったこと

進学、就職、社会人になってからのステップアップを技術士という資格が支えてくれたように思います。今まで以上に女性の活躍が期待される世の中ですが、エンジニアの世界ではまだまだ女性は少なく、それ故に働きづらさを感じることもあります。しかし、そういった状況でこそ、技術士という資格が性別や年齢を超えた自信となり、私のチャレンジ精神の源になっています。私は「技術士を目指す女子学生を支援する会」に所属し、これまでの経験を活かして後輩の相談に乗ったり、キャリア設計について話をしたりしています。子育てが一段落したら、もっと多くの学生さんと話をする機会を持ちたいと考えています。

技術士との出会い

出会いは大学生 3 度目の秋を迎えた頃、現在、特定非営利活動法人の理事長である木村了先生が講師として我が大学に来てくださったとき。講義の冒頭で資格の紹介をされたことが私と“技術士”の出会いでした。そのときは「有用そうな資格かも…」という程度の認識でしたが、就職活動の情報を集めていると頻りに飛び込んでくる“技術士”という文字。「これは！」と感じた私は、技術士という資格をきちんと理解すべく、技術サロン（日本技術士会 男女共同参画推進委員会主催、同登録グループ 技術者を目指す女子学生を支援する会（WPETF）協力）の扉を叩きました。技術サロンでは資格の有用性もさることながら、何より仕事をする上での強いモチベーション・責任感の土台となっているという話に感銘を受け、なれるならばなりたいたいと思うようになりました。

サロンを通じて出会った多くの女性技術士の「諦めない」「怖がらない」強さにも憧れを抱いた私。3 度目のサロンだったでしょうか。雲上人と思っていた女性技術士の方々が仰った「技術士は決して届かない目標ではない」という言葉に奮起し、修士 1 年時に技術士第一次試験に挑戦しました。結果、無事に合格。出会いのみならず、第一次試験合格という（ささやかな）成果も得ることが出来ました。

そして第一志望のエンジニアリング企業から内定をいただき、「2 年後に結婚、4 年後に技術士に挑戦→合格、出産」という計画通りに邁進してあるのみ！と考えておりました。しかし現実には、入社から 1 年 8 ヶ月後に心身のバランスを崩し休職、その半年後に退職という大きな挫折というものでした。

修習技術者としての仕事と活動

退職から半年後、主人の転職を機に夫婦共々縁のない都市へ引越しました。新しい環境が合っていたのか体調は徐々に良くなり、翌年には公務員（土木）として人生を再スタートさせました。受験前から、異動の多い公務員で技術士は果たして達成できる目標なのか、受験部門はどう決めるのか…と悩んでおりましたが、職場に試験のサポート体制があり、そして「一見繋がりのない業務でも、各々しっかり学べば“繋がり”が見える」という有資格者の言葉に励まされ、今は目の前の業務に誠心誠

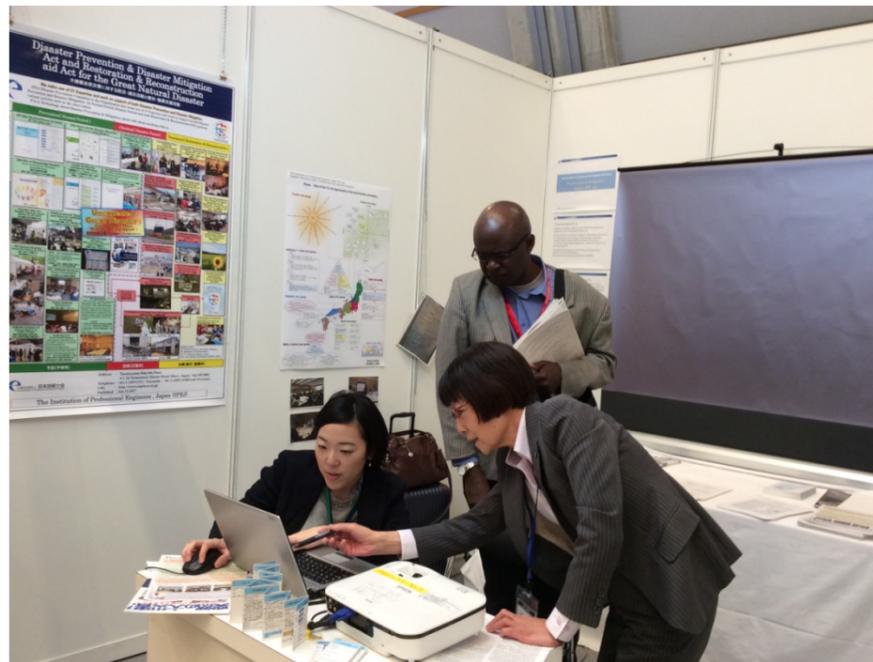
意向き合っています。ちなみに学生時代は農業土木（農村地域計画）を専攻していましたが、現在は治山堰堤の設計と工事監督業務を担っています。何をしても壁だらけで逃げ出したくなってばかりですが、農業土木と治山に“繋がり”を見つけるまでは、とことん学ばねば…と思っています。

プライベートでは 3 か月に 1 度は技術サロンにホスト（スタッフ）として顔を出しています。

女性会員の紹介

さとう よしの
佐藤 佳乃さん
農業部門（修習技術者）
政令指定都市職員

未熟者ですが…



〔WECC2015 世界工学会議技術士会ブースにて〕

最近では社会人のゲスト（参加者）が多く、これからキャリアを積んでいきたい私は、今はゲストからエネルギーをいただければいいのですが、今はお菓子の提供しか貢献していないため、5 年以内にはゲストにエネルギーを提供

できる存在になれば…と、ぼんやり考えています。

長い人生、しなやかに。

定年を 65 歳と仮定すると 30 年以上の仕事人生、女性の平均寿命を 87 歳（2016 年現在）と考えると 50 年以上の自分の人生が待っています。気が遠くなる年月ですが、この時間を長く楽しむためにはバランス—仕事と家庭、心と身体—が大切と断言します。私はバランスを保つ上で、パートナー選びに成功したと実感しています。身体的に疲れないように家事を手伝い、精神的に落ち込まないように話を聞いてくれる主人。この人となら、人生長く楽しめるかと確信しています（主人がどう思っているかは不明です。）。もちろん自分でバランスを取ることも大切です。私は「人生は予定通りにならなくても、自分自身が諦めず怖がらなければ大丈夫」と挫折から学びました。挫折経験に対して「人生遠回りしちゃったな…」と落ち込む瞬間もありますが、後ろを見ても何も変わらないので、この先の 30 年以上の仕事人生と 50 年以上（予定）の自分の人生に目を向けるようにしています。

技術士を目指している技術者の皆様、長く険しい道のりですが、一緒に頑張りましょう。

「あれこれ何通りも起こりうることを考えてもさ、人生って結局 1 通りにしかならないんだよ。なるようになるんだから大丈夫だよ。」（主人より）



〔夫と富士山頂へ登頂（撮影：実父）〕

技術者を目指したきっかけ

高校生であった1990年代、漠然と将来の事を考えていた頃、当時、今年オリンピックでにぎわったりオデジャネイロで環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）が開催され、日本国内でも環境問題が大きな話題として取り上げられるようになった。その影響か将来は環境に携わる仕事がしたいと思い、また自然が好きだったこともあり大学は理学部の生物学科に進んだ。

大学卒業後、3人姉妹の長女であったため、地元での就職を希望した。福井県という小さな県では望んでいたような仕事は見つけれず、地元の地質調査会社が、業務の一部で自然環境調査を行っているという事を就職情報雑誌で見つけ、一も二もなく応募した。この会社では7年間、建設コンサルタント関係の様々な業務を経験させてもらった。その後、環境の分析・調査に関する業務を主体に行う現在の会社へ転職することになり、現在に至っている。



〔水路での生き物調査〕

技術士試験への挑戦は、転職する少し前に受験資格が得られる7年間の実務経験を得て、また、今後ずっと技術者として働いていきたいという気持ちもあり、受験したと記憶している。技術士という資格を得ることで、自分の技術者としてのキャリアアップにつながればと、

その時は軽い考えでいたように思う。

技術士としての仕事

実際に技術士となったのは、転職後すぐの事であった。新しい会社では建設部門の技術士を持っている人がおらず、大変喜んでもらったのを覚えている。その後、技術士の看板を背負って仕事をするようになったが、今思えば自分の能力以上の仕事を渡され、四苦八苦していた。試験には合格したものの、技術士としてはまだまだ未熟であった。いろいろな失敗や、周囲に迷惑などを掛けながら、技術士試験に受かってからが大事なのだということを感じた。

女性会員の紹介

ただ てるよ
冨田 照代さん
建設部門（建設環境）
農業部門（農村環境）
環境部門（自然環境保全）
株式会社北陸環境科学研究所
技術士で得られた
つながり



日々の仕事は実務の積み重ねと自己研鑽によってより良いものになるものであると、現在は強く感じている。

技術士になってよかったこと

技術士に合格したときに、県内ではまだ珍しかった女性の合格者ということで、色々な人から声を掛けてもらった。その中で、県内の技術士会や、北陸の技術士会に参加する機会を得て、時間の許すかぎり参加するようにした。これらの団体が企画する技術研修会では自分の専門以外の話を聞く事ができ、非常に刺激を受けた。また、

様々な技術士と交流する中で、自分と同年代の青年技術士の方々との交流は非常に楽しかった。また、北陸では年に一度女性技術士同士での交流を行っており、女性ならではの悩みや仕事と家庭への向き合い方など、技術以外の事でいろいろ考える機会を得ると同時に、同じ立場で頑張っている方々を知ることによって、心強い気持ちにもなっている。

技術士になって、様々な人と交流し、つながりを得られたことが、今自分にとって非常に大きな財産と感じている。



青年技術士の交流会の様子

ワーク・ライフ・バランスについて

福井県は共働き率が全国2位の県である。世間的にも奥さんも働くのが当たり前という風潮がある。しかし、どの会社でも女性が働きやすい制度などの受け皿が充実しているかという点、そうではなく、結果的に女性の家事と仕事の負担が大きくなってしまっている場合が多いように思う。

私自身は結婚が遅かったこともあり、主人と姑の3人暮らしという割合気楽な環境にいるが、それでも家事と仕事のバランスをどう取ればよいか日々模索中である。先輩方の経験を聞きつつ、自分も家族もあまり我慢しない生活を続けていきたいと思っている。

いざ、技術士へ

私は大学で建築を学び、卒業後は建築関係の会社に勤めました。その当時は建設業界でまだ女性は少なく、男女で異なる扱いに違和感を覚え、将来の自分の活躍がイメージできなくなり、就職して約5年で一度仕事をやめました。その後、違う仕事に就こうとアルバイトを探し、会社名からの勝手なイメージで違う業界だと思い応募したところ、なんと、建設コンサルタントの会社でした。そこで初めて「技術士」という資格を知り、挑戦中だった一級建築士をまず取得し、出産後、覚悟を決めて技術士を取得しました。出産は女性の人生にとって大きな節目になります。私は「技術士」を取得することで、出産後も技術者として仕事を続ける意思を周りに示しました。31歳、私の技術士人生の始まりです。

技術士として

私は都市、住まい、建築、地域活性化などに関わる調査検討、計画づくりなどに携わっています。かつては統計などの情報整理から現状・課題を把握し、行政の担当者との打ち合わせや会議等で今後の取組について検討する方法が主でしたが、最近では、地域住民をはじめとし、多くの関係者と情報共有、意見交換しながら、具体的な動きに結び付ける方法を一緒に考えることが多くなってきています。



〔住民とのワークショップ〕

そのため、専門分野以外にも多くの関連分野について理解し、総合的に判断していく力が求められ、建設部門

に加え、総合技術監理部門の資格を取得しました。

また、技術士会での活動が、私の成長、仕事の質を高めるためにとても有意義なものとなっています。技術士を取得した当時、北海道ではまだ若手の女性技術士が少なかったこともあり、青年技術士交流委員会の幹事へお誘いいただきました。女性も含めたくさんの先輩技術士と出会い、導かれて、社会への情報発信、将来の技術士育成に向けた活動、全国の若手技術士との交流などを通じ、一気に人脈・視野が広がりました。H25・26年には青年技術士交流委員会の委員長を務め、北海道での全国大会で分科会を運営するなど、貴重な経験もさせていただきました。技術士会では、これからも積極的な活動を行っていききたいと思っています。

女性会員の紹介

ながい ともみ
永井 登茂美さん
建設部門（都市及び地方計画）
総合技術監理部門
（建設-都市及び地方計画）
日本データサービス株式会社



私の30代、
技術士の目線から



〔青年技術士交流委員会での活動〕

ワーク in ライフ

私にとって最も大切なものは家族です。



〔ままだいすき〕

共働きの人生を選び、子どもの生活に合わせて出勤時間を少し遅く、定時に退社し、子どもの起床前3時間程度を仕事の時間として確保するライフスタイルとし、朝起きてから寝るまであわただしい毎日を過ごしています。「どうやって仕事と家庭を両立していますか？」とよく聞かれますが、両立はできません。毎日試行錯誤しながら、家族の笑顔と地域の皆様の笑顔を求めて努力しています。

今、「働き方」の転換期を迎えているのではないのでしょうか。建設業界は忙しい業界の1つですが、インフラの整備・維持管理を国民の生活に寄り添って考えていく技術者であるためにも、自らの人生・生活を大事にすることが必要だと思います。ワーク・ライフ・バランスではなく、ワーク in ライフ、豊かな人生・生活のなかに仕事をおいたとき、どのような働き方を選択していくか、これからも考えていきたいと思っています。

未来の女性技術士へ

「女性活躍」というのは違和感があり、誰もが活躍できる環境が必要だと思います。しかし、ここではあえて、女性がより活躍していくために、周りに環境が整うのを待つのではなく、まずは自分ができること、自ら環境を変える意味で、女性技術者は積極的に「技術士」を取得しましょう！女性が少ないからこそ目立つ、評価される、自信がつく。私はその恩恵を受け、この10年間、充実した毎日を送っています。

技術士として 活動と仕事

環境コンサルタントとして昨年まで、海外の開発プロジェクトの環境面（汚染対策や生態系など）や社会面（周辺住民や文化財など）での配慮を確認する仕事に従事しておりました。ケニアの地熱発電所、ミャンマーの送電線など建設プロジェクトに携わり、現地国の電力公社の高官と協議をしたり、少数民族へのヒアリングを行いました。プロジェクトサイトがへき地にあることも多く、でこぼこ道を長時間で車移動したり、小型船をチャーターしたり、山登りをしたりとあらゆる手段を用いて現場確認へ行きました。現地では時差、治安へ配慮等苦労することもありましたが、実際に担当者と話すと、現場を見ると断然理解が深まるので、現場へ行くことの重要性を肌で感じました。他社の技術士の方とチームを組むことも多く、プロの技術者として現地で仕事をする姿などを目の当たりにし、尊敬の念をいただきました。

現在は自動車会社で中期環境戦略の進捗確認、次期環境戦略の策定に関わる仕事のほか、環境への取り組みについて投資家向けの質問状へ回答する等、社内外へ環境活動をアピールする仕事もしています。

また、技術士を取得した2013年からは青年技術士交流委員会としても活動をしています。



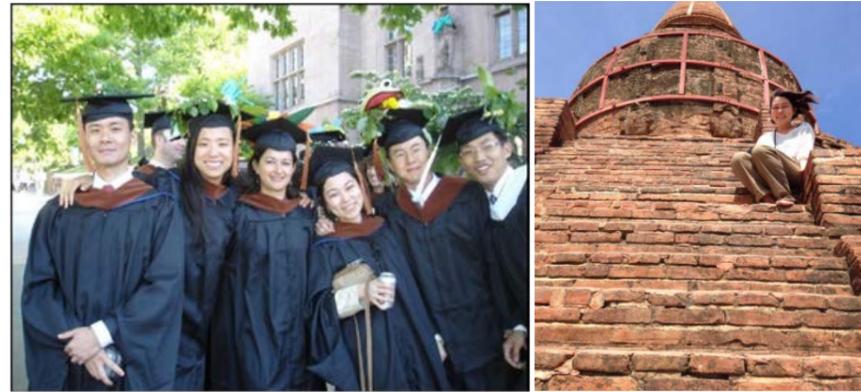
〔業務の写真〕

キャリアパス

大学を卒業してから、地方公務員、審査機関、コンサルティング会社、事業会社とさまざまな業界で仕事をしてきました。その中で一貫しているのは、環境に携わり

たいという想いです

アメリカの学生たちは大学院の卒業前、「自分の経歴は自分で作る」という意識を持って就職活動をしていました。終身雇用が少なくなってきた現代での働く心構えを学んだ気がします。私も同じ意識を持って、最適なキャリアパスを自ら築いていければと思います。



〔プライベートの写真〕

女性会員の紹介

まるやま なおこ
丸山 奈緒子さん
環境部門（環境保全計画）
日産自動車株式会社

私のキャリアパスと
技術士



千葉県庁：
用排水路や橋梁等、農業施設の整備に従事。環境配慮型水路の設計や小学校向けの生物観察会にも携わる

大学院留学：
米国エール大学へ留学。環境マネジメント学修士取得
ビューローベリタスジャパン株式会社（外資系第三者認証機関）：

環境省や東京都の排出量取引制度における CO2 排出量のデータ検証や CSR 報告書のレビューを実施

イー・アール・エム日本株式会社（外資系環境コンサルティング会社）：

海外開発プロジェクトの環境社会配慮の確認、二国間オフセットクレジットの実行可能性調査、工場の労働安全衛生の監査等を実施

日産自動車株式会社：
中期環境戦略の進捗管理、次期環境戦略の策定や環境活動の社内外へのコミュニケーションを担当

技術士を目指した動機

新卒で役所に就職した際、農業用施設を整備する業務に携わりましたが、事業の効率性や維持管理のしやすさが重視され、環境への配慮に携わる機会は限られていました。そんな中、環境に関する仕事へのやる気をアピールすることが重要と考え、環境に関わる国家資格である技術士の取得を目指すことにしました。

技術士になってよかったこと

その後留学、転職を経て、環境コンサルティング会社に在職中、技術士を取得しました。技術士の資格を得たことにより、提案書でプラスの評価点をいただきやりがいのある仕事を受注できたり、お客様に最初に名刺をお渡しした際に「技術士なんだね」と評価していただけて、業務に直結したメリットを感じることができました。

ワーク・ライフ・バランス

環境コンサルティング会社に勤務していた時は、最長で1ヶ月、平均して1週間ほどの海外出張が毎月あり、公私のバランスが上手く保てないこともありましたが、でも長い移動時間を有効活用したり、現地の食事を楽しんだり息抜きをする術も身に付けられた気がします。自動車メーカーに転職した現在は残業もぐっと減り、バランスが取りやすくなりました。

いままで様々な組織で働く中で、いろいろな就業規則も体験し、国内外の働き方を知る機会にも恵まれました。いままで触れてきた多様な働き方を参考に、これからも自分の人生のステージにおいて最適な働き方を模索して行きたいと思っています。その際には技術士という技術コンサルタントに関する唯一の国家資格がきっと役に立つと確信しています。

私の仕事

私は(株)中電工という会社で、再生可能エネルギー設備の導入、電気設備の省エネルギー、スマートコミュニティの構築などを通じて、人や環境の快適につながる技術営業を担当しています。所属するソリューション営業部は23名で、技術士も多く在籍している環境の中、尊敬する先輩に囲まれてのびのびと働いています。

私たちはどんな案件でもチームでミーティングをし、どのメンバーの得意分野を生かせば解決できるかを、まるでパズルのように組み立てています。ご存知のとおり技術士は公衆の利益を最優先することが、倫理綱領に定められています。女性技術士の強みは、公衆の大半である女性・子供・高齢者の生活や考え方を理解し寄り添えることだと思います。これからも身につけた技術を分かりやすい形で暮らしに反映できる存在として貢献していきたいです。

これまでのキャリア

そんな私は働き始めて16年目です。これまで幸せなことに、様々な分野に携わらせていただきました。



〔20代 住宅リフォームを担当お客さまと〕

会社員であるため、自分のキャリアは自分の意思だけでなく、周囲の人が導いてくれた結果を混ぜ合わせたものです。18歳で工業高校電気科を卒業した私は、当たり前のように就職という道を選びました。授業で見た建設現場の職人さんにあこがれを持ったのがきっかけで、建

築設備工事を担う今の会社を選びました。一人娘が男性社会に飛び込むということで、心配した両親に大反対されたことも今では懐かしい思い出です。入社後は電気設備現場代理人として、ビル・病院・商業施設・住宅などの施工管理を担当しました。1回だけ泣いた現場もありましたが、辛いこと“だけ”はすっかり忘れてしまいました。厳しくも優しい父親のような上司や職人さんと過ごしたこの時期が、私の基礎を作ったと思います。

その後、住宅リフォーム営業部署の立ち上げや「電力見える化システム」の提案営業を担当しました。また約1300人いる現場代理人にタブレット端末を配布し、施工管理で大きな割合を占める書類作成業務を楽にするための業務改善チームでも働きました。

女性会員の紹介

みょうい ようこ
苗井 洋子さん
電気電子部門（建築電気設備）
株式会社中電工



世界を広げる

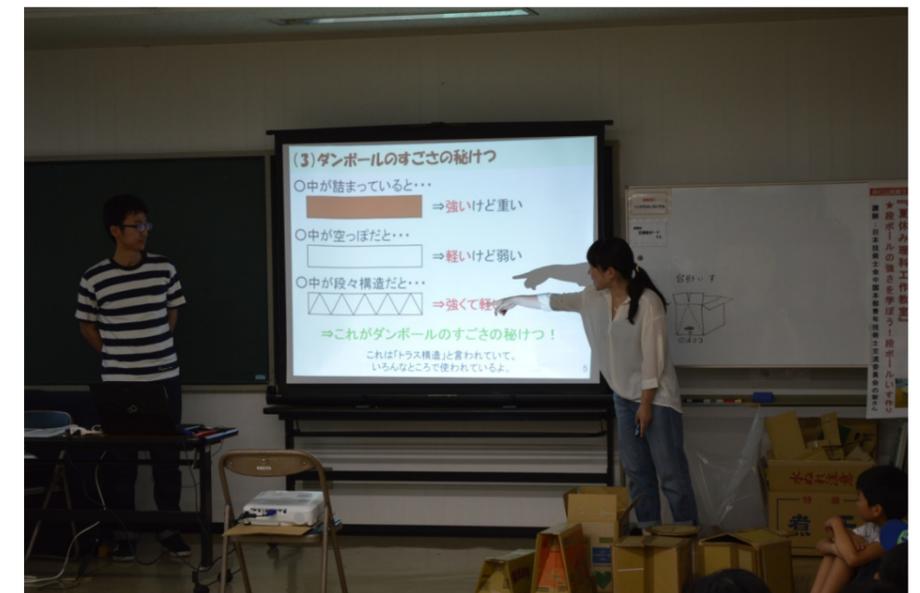
振り返ると、あこがれていたはずの職人さんの仕事はしていないことに気づきます。でも不満はなく、専門性だけにとらわれない幅広い仕事をすることで可能性と適性を見つけてもらったのだと思います。これからの未来、どんな仕事と向き合うかはまだ分かりませんが、どんな仕事でも挑戦していきたいです。

仕事と暮らし

現在は夫と二人で暮らしています。夫は私が働くことを応援してくれ、時には料理もしてくれる頼もしい存在です。しかし30歳の頃、仕事と家庭の両立にとっても悩みました。ここでペースを落としたら仕事での居場所がなくなるのではと不安で視野が狭くなり、家族を大切にしなければならず迷惑をかけてしまいました。その反省をもとに

「仕事6家庭4」という自分なりの最適バランスを意識して保っています。休日は趣味や夫婦の時間を大事にし、これからもしっかりと選んだ道を進んでいくことが、私が家族へ見せる姿だと思います。

今の時代、女性の生き方は多種多様です。家庭、キャリア、余暇、どれに傾いても尊重される世の中になればと思います。最近、女性技術者の集まる設備女子会や、社内の女性活躍推進グループに入りました。働く女性同士おしゃべりするだけでも仲間がいると思え、心強くなります。働く女性はみんな希望で輝いています。仲間と向き合う時に私も恥ずかしくないよう、明るく前向きな毎日を過ごしていきたいです。



〔今夏（2016年）青年技術士交流会 夏休み工作教室〕

技術士を目指すなら

大型現場への有資格者配置が必須となった今、経験だけではものが言えない時代が来ました。また資格がないと、経験できる業務の幅も狭まってしまいます。経験は年齢を重ねないとできないものもありますが、資格はこつこつやれば若いうちに取得することも可能です。技術士合格に必要な勉強時間は数百～数千時間と膨大に思えますが、1日当たりの時間数にすると数時間です。それなら何だかできそうな気がします。私は技術士を取得することで、現在のチームに加わるチャンスももらいました。これをまた新たなスタートと考え、世界を広げていきたいです。